

## 第1期中期目標

### 第1期中期目標

#### 前文

宮崎公立大学は、高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、学問の本質を探究し、広く地域（※1）に開かれた大学としてその責任と役割を果たしてきた。

しかし、今日大学は、急激な少子化の進行と厳しい競争に直面しており、これに対応していくためには、本学の理念（※2）をふまえつつも、さらに個性ある魅力的な大学を目指さなければならない。

そこで、公立大学法人宮崎公立大学は、国際教養を身につけ、内外の社会に通用する実践力を備えた人材の育成を図り、国際的・学際的（※3）な研究を行うとともに、リージョナル（※4）な課題解決や地域貢献に関わる取組み等を通じて人々の負託に応える。

また、自主自立（※5）の大学を目指して、効率的・効果的に大学を運営する。

第1 中期目標の期間 平成19年4月1日から平成25年3月31日

#### 第2 教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 教育に関する目標

国際社会、地域社会に通用する、質の高い専門性に基づいた総合的な教養教育を行い、社会に柔軟に対応できる能力と専門知識を主体的に応用できる能力を養成する。

これにより、知の時代（※6）、グローバル化の時代を担う、自律（※7）性と積極性を備えた人間性豊かな人材の育成を図る。

このような教育の実現に向け、教育理念にかなった学生を安定的に確保するとともに、学生の主体性を尊重し、学生が能力・資質を十分に発揮できるよう、入学から卒業まで一貫した支援を行う。

##### （1）教育内容と方法に関する目標

国際的な視野や学問的かつ実践的な知識と技能を身につける教育を目指す。英語とICT（情報通信技術）（※8）の高度な運用能力を養成した上で、一つの専攻専門分野の知識を深める教育と同時に、各専門分野を総合的に学ぶ教育を実施する。また、修得した専門知識と技能を社会生活で活用し実践できる能力を養成する。

##### （2）教育支援体制に関する目標

全学的な取組によって、教育活動の絶え間ない反省と改善を促す体制を整備するとともに、学生にとって有益な学習環境の整備を進める。

##### （3）学生支援に関する目標

学生の主体性を尊重する大学として、学生が能力・資質を十分に発揮できるよう、学生の健康・安全に配慮しながら、学習、生活、課外活動（※25）、進路に関する総合的・包括的な支援体制の強化と支援内容の充実に努める。

##### （4）学生の確保に関する目標

大学の教育目標にかなった学生を数多くそして幅広く確保するために、高大連携の推進、広報活動の展開、入試体制及び制度の再検討等の取組を行う。

##### 2 研究に関する目標

人文学、社会科学、情報・基礎科学を中心とする学術研究の拠点として、グローバルな視

点と方法に基づく国際的で質の高い研究を行うとともに、地域社会のニーズを的確に把握し、その問題解決のための研究を行い、それらの成果を具体的に社会に還元する。

#### (1) 研究の方向と水準の向上に関する目標

本学の特色を生かした国際的で学際的（※3）な学術研究を自主・自律（※4 1）的に行うとともに、産学公民の連携により地域課題の解決に寄与する研究を行う。また、研究活動およびその実施体制等について適切な評価を行い、研究の水準の維持・向上を図る。

#### (2) 研究体制等の整備に関する目標

研究活動の推進及び教員の研究能力の向上に資する体制を整え、学外と連携する研究を推進し、地域研究センターの充実を図る。

### 3 地域貢献に関する目標

地域に開かれた「知の拠点」として、知の創造、知の継承とともに知の活用としての地域貢献を行う。地域社会のニーズに適切に対応するとともに、本学の知的財産を活用して組織的・総合的に地域貢献に取り組み、グローバルな視点で地域社会の教育の振興、産業経済の発展、文化の向上、国際理解の推進に貢献・寄与する。また、地域と本学のかけ橋として、地域研究センターや交流センターを有効に活用する。

#### (1) 教育研究成果の地域への還元に関する目標

地域住民の暮らしに寄与し学びを支えるとともに、地域の活性化や人材育成に貢献することを基本的な考え方として、教育研究の成果を地域に還元する。また、行政機関をはじめとする各種機関と連携し、シンクタンク（※4 5）的機能を果たすとともに、地域が直面している諸問題に対して地域と一体となって取り組む。

#### (2) 地域の国際化及び国際理解に関する目標

地域の国際化を、諸外国との相互理解や地域活性化につながる一側面としてとらえ、その活動を支援するとともに、国際化推進に係わる行政機関をはじめとする諸機関や地域の人々と連携し、国際交流、国際理解への活動に貢献する。

### 4 魅力ある大学づくりに関する目標

少子化に伴う大学全入時代（※3 5）の到来に対応していくため、本学の理念（※2）を生かしつつ社会や地域の要請に柔軟かつ的確に対応できる人間性豊かな人材の育成に努めるために、学部・学科の再編等をも視野に入れた、さらに個性的な魅力ある大学づくりのための方策を検討する。

## 第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### 1 組織運営の改善に関する目標

組織運営における理事長のトップマネジメントを確立し、迅速な意思決定を図るとともに、予算の有効活用に努める。また、外部の意見を大学の運営に積極的に活用する。

#### (1) 機動的な運営体制の確立

理事長と学長並びに各組織の長の権限と責任を明確化し、理事長のリーダーシップのもと迅速で的確な意思決定が図れる組織体制を整備し、戦略的・機動的な運営を行う。

#### (2) 予算の戦略的で効率的な活用

中期目標等に基づき戦略的・計画的に大学を運営するために、全学的視点に立ちながら、予算の柔軟で効率的な活用に取り組む。

#### (3) 外部意見の積極的な活用

社会や地域の要請・期待に応えるため、学外の有識者や専門家の任用、地域住民の意見

等を反映させる方策等に取り組み、社会に開かれた大学運営を目指す。

## 2 人事の適正化に関する目標

迅速性・計画性・柔軟性のある大学運営と教育研究活動の一層の改善と充実を図るため、専門性の高い優秀な人材を確保・育成し、その能力を最大限に発揮させる仕組みを確立する。また、適正な人的配置を行うことによって教育研究等の質の向上を図る。

### (1) 法人化のメリットを生かした人事制度の構築

教員及び事務職員の能力を最大限発揮するため、雇用・勤務・給与形態の多様化を図り、柔軟で弾力的な運用を可能とする人事制度を構築する。

### (2) 人事評価制度の確立

教育研究活動等の活性化を促進するため、教育、研究、地域貢献、大学運営等の多角的な視点に立ち、公平性、客観性等が確保される職員の業績評価、能力評価制度を確立する。

## 第4 財務内容の改善に関する目標

安定した大学運営を図るため、経営的視点に立って、自己の努力と責任のもとで、持続可能な財政運営に努める。

### 1 自己収入の増加に関する目標

教育研究に係る水準のさらなる向上を目指し、外部資金等の積極的な獲得に努める。また、授業料等学生納付金については、適正な金額を設定する。

### 2 経費の抑制に関する目標

事務の簡素化・合理化を積極的に推進し、経費の抑制を図る。

### 3 資産の運用管理の改善に関する目標

資産の効果的・効率的な活用を図り、適正な維持管理を行う。

## 第5 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開に関する目標

### 1 自己点検・評価に関する目標

業務運営改善のため、教育、研究、地域貢献、組織運営に関わる自己点検・評価を行うための体制を整え、厳正な評価を実施するとともに、第三者機関等による外部評価を受ける。また、評価結果については速やかに分かりやすく公表し、その改善に反映させる。

## 第6 その他業務運営に関する重要目標

### 1 施設設備の整備・活用等に関する目標

施設設備については、中・長期的な視点に立った整備を行い、良好な教育研究環境を保つ。

### 2 安全管理に関する目標

学生と職員の安全・健康の確保のための諸施策を進める。また、地域での災害対応ができる体制を整備する。

### 3 情報公開の推進に関する目標

組織及び運営の状況についての情報公開に努め、公立大学法人としての説明責任を果たす。また、大学の教育研究について、その成果を通じて地域社会及び国際社会に貢献できるよう、それらの成果の普及及び情報発信を図る。

### 4 人権に関する目標

人権に対する意識の啓発を行うとともに、セクシュアル・ハラスメント等の防止に努める。

## 語句説明

### ※1 地域

宮崎を中心とした地域。

### ※2 本学の理念（建学の理念・目的）

広く知識を授け、深く専門の学術を教授研究し、高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学として生涯学習の振興、産業経済の発展及び文化の向上に貢献すること。

### ※3 学際的

ある学問と別の学問の間にある境界領域で、それぞれの学問の研究者が協力することによって初めて研究が行えるような場合に、その研究を学際的な研究と呼ぶ。

### ※4 リージョナル

地理的には宮崎のみならず九州、東アジア、環太平洋全体を指す。概念的には特定地域に限定されない地域一般に関する事象や問題を指す。

### ※5 自主自立

民間的経営手法や中期計画等による業務管理を導入することにより、経営的な面も含めて大学全体を俯瞰した運営を行うこと。

### ※6 知の時代

新しい知識・情報・技術が、政治・経済・社会・文化のあらゆる領域における活動の基盤として飛躍的に重要となる時代である。その一方で、既存の知識をすぐさま陳腐化させる時代でもある。知の時代には、生涯にわたる絶え間ない学習によってのみ有意義な活動が可能となる。それゆえに、本学では学生が主体的自律的に学び続けることができる能力の育成を目指している。

### ※7 自律

倫理観に基づいて自分で自分の行為を規制すること。

### ※8 ICT（情報通信技術）

Information & Communications Technology の略語。ICT とは、従来のIT の意味するコンピュータ技術に加えて、コミュニケーションを強調した表現であり、情報技術の活用を利用者の立場も含めて考える場合に使われる。本学では、知識やデータといった情報（Information）を適切に他者に伝達（Communication）する技術（Technology）を、各専門分野を通して総合的に理解し、社会生活で活用できる能力を養成する。

### ※25 課外活動

大学の教科学習以外の学生が行う活動をいう。一般的にはクラブ活動を指す。本学の平成18年度のクラブ活動は39 団体、延べ764 名参加。

### ※35 大学全入時代

18 歳人口の減少により、志願者が入学定員を下回る時代。

### ※41 自律

データの捏造や研究資金の不正流用といった行為が行われないように大学が自ら規制すること。

### ※45 シンクタンク

様々な領域の専門家を集めた研究組織、政策研究機関、調査研究機関で、求めに応じて政策決定、経営戦略の立案、技術開発のための市場調査などを行う。